



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net



難しいコード入りの曲も、いくつか弾けるようになりました。「次はギターをやってみよう」。初心者の難関<F>コード。<C>から<F>へ移るときがムズカシイ...と言いつつだいたい形ができてきました。居場所にはギターとウクレレが2本ずつあります。脇で見ていたスタッフが「私も弾いてみようかな」。そこで、練習曲を決めて合奏しようということになりました。歌も合わせたいのですが、いまはがまん。マスクを付けて、つぶやくようにしか歌えないのがとても残念です。

「子どもの居場所」、この半年

2月から始まった全国一斉学校臨時休業は春休みを過ぎても継続となり、学校休業のまま新学期が始まりました。4月、5月は居場所利用者に登録中・登録予定の子どもたちに限り、体調に注意しながら受け入れを続けました。6月に入り居場所利用の問い合わせや新たな利用登録がありましたが、新しい参加者の継続来所は少ない状態です。

猛暑の夏休み期間が過ぎ、9、10月の継続利用は、今のところ数名にとどまっています。とはいえ、小中学生の参加者、通信制に通う高校生や居場所としての利用者もあり、子どもの居場所はいつもにぎやかです。

スタッフも加わったカード対戦や「マインクラフト」などのビデオゲーム、「ブロックス」などのボードゲームもいままでのように楽しんでます。最近の活動をレポートします。

「ギター弾きたい!」、「うーん、まずここにウクレレがあるから練習してみよう」。ウクレレは指に負担がかからず、弦を押さえる手と、弦を弾く手の協調が習得しやすい。はじめに練習する弦楽器としておすすめです。(ただし奥は深いぞ)

まず、コードを3つおぼえて簡単な曲の伴奏ができ、少し



「15パズル」を作ってみよう。せっかくだからちょっと大きめに作りたい。久しぶりに電動糸ノコの出番。

使い慣れた利用者さんが角材をカットしてくれました。数字の書き込みはTシャツ用プリンタシートを試

してみたけれど、木材への転写がうまくいかず失敗。タイプの違い転写紙に印刷し、切り取って貼り付け、枠を工作してできあがり。「お疲れさまでした」。数字ピースを順にスライドし、1から15まで整列させます。最初のピースの配置によって、整列できるときと、どうスライドしてもできないときの比は1対1だそうです。「群論」という数学で証明できるとか。

画面をにらみながら、ミニPCmicro:bit(マイクロビット)のプログラムを試しているのはスタッフのFさん。5×5の小さなディスプレイで動くゲームや、LEDアレイを虹のように点灯させるプログラムを動かしています(上写真)。ネット情報を参考に、micro:bitを使ったLEGO自動車の操縦にも取り組んでいます。LEGOブロックなら車体が自由にデザインでき、子どもたちが喜びそう。完成が楽しみです。(手塚)

目次

子どもの居場所	1
「不登校支援連絡会議」来所	2
居場所利用のお願い	3
活動報告	3
こんな本はいかが・51	4

居場所のひとこま

今年はコロナの影響で家庭菜園を始める人が増えたとか。居場所では、近くにある大家さんの畑をお借りして、じゃがいも栽培をやっています。そのほか、プランターできゅうりやミニトマト作り。夏の暑さに参ってしまったのか、陽当りに問題があったのか、ミニトマト、ナスやキュウリのできはいつもと比べていまひとつでした。それでもミニトマトは10月の急な気温低下にも負けず、元気に実を付けています。(N)



不登校児童生徒に対する支援連絡会議 メンバー、「子どもの居場所」を訪問

8月7日、栃木県教委の各教育事務所 児童・生徒指導担当者および義務教育課 児童・生徒指導担当者の9名の方々が市教委数名の方とともに、平ヶ崎の「子どもの居場所」に来所されました。「不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保に関する理解を深める」ことを目的としての訪問とのことでした。「居場所」の茶の間と座敷を合わせて座っていただいても「密」になりそうでしたので、通風のため扇風機を多数持ち込み、窓を開け、椅子を配置しました。居場所で過ごす子ども達の姿も見ていただけたのですが、感染の心配もあり、訪問は開所前の午前中。居場所スタッフとともに若杉学級の訪問を終えた会議委員の方々をお迎えしました。

はじめに参加者の自己紹介を行い、つぎに「子どもの居場所・なんとなくのひろば」を立ち上げた2003年からの歩みについて、理事長が報告を行いました。(右上写真)

(1) 不登校の子の保護者、発達障がいの子を持つ親たちが集まり、互いに交流できる場所、そして子どもたちの「多様な生き方」を保証するための居場所構想がふくらんだこと、(2) 2004年には構想実現の準備として、高根沢町教委が始めた「ひよこの家」や「東京シューレ」などの見学を経て、今市市教委(当時)との施設使用や補助金についての交渉を行い、「報徳今市振興会館」での居場所づくりが始まったこと、(3) 「表面的な学校復帰を目的とせず、学習プログラムなどの強制もしない、子どもたちが安心できる場」を目指した居場所づくりについて市教委と話し合ったこと、(4) 2013年、振興会館の取り壊しにともない現在の場所に移転。同時に補助金による運営から、日光市の委託事業に移行することになり「子どもの居場所・学びの場」として現在に至っていること、(5) 不登校などの子どもたちの受け入れ、在籍校・市教委との連携の流れと具体的な手続き、利用者数について、(6) 居場所での子どもたちの活動、中学卒業後の進路・進学先との連携、福祉系の「放課後デイサービス」などとの連携、そして保護者に向けての「茶話会」の実施について、(7) 特定相談支援事業「さくらそう」との連携および卒業後の就労移行支援・就労継続支援の流れについて栗原理事が解説、(8) 最後に当居場所は利用者の費用負担はなく、市からの委託金に加えて会員からの会費や寄付金を充当し運営していることを前年度の事業別損益



表により説明。およそ20分ほどの講話となりました。

終了後、当NPOから参加した、居場所スタッフがそれぞれの思いを述べ、委員の方から居場所の運営について、居場所に通う子の在籍校との連携についての質問がありました。そのやりとり中で印象に残ったスタッフからの話を紹介します。「居場所を利用している子が、あるとき、『なんにわっていいよね。なんか落ち着く』と話しました。私たちにとっても深く、意味のある言葉に感じました。子どもたちがありのまま、自分らしく過ごすことができる場所として「なんとなくのひろば」を必要とされているのです。スタッフとしてとても嬉しく思いました...」

子どもたちの部屋、「つくって食べよう」の台所、ハンモックや楽器が雑然と置かれた座敷もふだんのまま、見ていただきました。自分がじぶんでいられる居場所があることが、どれほど重要かを県教委の方々にも理解していただける機会になったのではないかと思います。(丸本、手塚)

ネット環境補助など・日光市に要望書提出

2018年5月に開かれた第14回通常総会で、子どもたちや若者たちの生活リズムを維持するため、長期休業中も「子どもの居場所」を開所できないだろうかという意見がありました。その後の理事会で、利用者、保護者そしてスタッフの考えも取り入れ、学校長期休業中の開所を決めました。お盆とお正月の前後は除き、子どもたちの集いや学びの場として居場所が活用されるようになり、学校からの宿題に向き合う子も見られました。昨年度は235日開所、日数増にとりまう人件費および施設費の増額について、従来の220日開所の見直しを要望しましたが、残念ながら実現に至りませんでした。2021年度の予算編成を前に、昨年に引き続き日光市に再度お願いすることにしました。

もうひとつは「子どもの居場所」のインターネット接続についてです。2013年度以前から地域企業の無償援助によりモバイル型WiFiを用いてネット接続を行っています。子どもたちにも開放し、使用できる環境となっていますが、天候や電波状況による通信の不安定さが課題となっています。若杉学級や市内小中学校との情報通信環境を活用した連携、学習素材の共有化などの検討のためにも必要な設備です。より安定なインターネット回線を設定し、維持するため通信費追加の検討を要望いたしました。(手塚)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時～12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合ひましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

- 7月27日(月) 通信「なんとなくのひろば・第60号」発行
- 8月5日(水) 若杉学級運営会議(本年度第1回)に参加
- 8月7日(金) 不登校児童生徒に対する支援連絡会議(県教委)居場所見学
- 8月9日(土)～8月16日(日)居場所夏休み
- 8月16日(日)ベリー会 月例会
- 8月27日(木) 市役所にて学習会「発達障がい」の理解・特性について(居場所スタッフも参加)
- 9月1日(火) 理事会(第97回)
- 9月14日(月) 茶話会(第100回)
- 9月27日(日)ベリー会 月例会
- 9月28日(月) 要望書提出
- 10月12日(月) 茶話会(第101回)
- 10月25日(日)ベリー会 学習会

さくらそう関連の勉強会など

2020年度・日光市相談支援専門員連絡会

7月22日(水) 2020年度年間計画

9月23日(水) 障がい福祉サービスの概要について

2020年度・日光市障害者自立支援協議会

8月27日(木) 第1回 相談支援実務者会議「発達障がい」の理解・特性について学ぶ

10月8日(木) 第4回 事例検討会議

秋になってもマスク！
マスクは苦手、つい話に夢中になると外してしまう子もいます。こんなアイテムも用意しました。



さつまいもをいただいたので「さつまいも蒸しパン」を作ってみました。久しぶりの「つくって食べよう」番外編。「うん、おいしい」と、ふかふかのおやつに、みんな大満足でした。



居場所利用のお願い



日光市内の小中学校は6月より再開されましたが、新型コロナウイルス感染の広がりについてはまだ安心できない状況です。インフルエンザの流行も心配です。この状態が収束するまで、以下の点にご注意いただき、健康に配慮した居場所利用をお願いします。

- (1) 12時30分～16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。

「なんとなくのにわ」への相談は、いままでどおり受け付けています。電話またはメールでご連絡ください。

年中行事となっている「川むしたんけん隊」について「今市の水を守る市民の会」と相談の結果、今年度は実施見送りとなりました。最近の新聞記事には「自然観察会」など、子ども参加のイベントが見られます。学校の遠足や修学旅行も人口密集の地域を避けて行われているようです。そのいっぽうで、集団感染や「クラスター発生」が毎日のように報道されています。新型コロナは「まったく無症状の感染者が他の人に感染させる場合がある」という特性を持つことがわかってきました。感染を抑えるためには「私は感染しているかもしれない」という自覚が必要です。感染の広がりを防ぐためのマスクと手洗いは、当分の間続くことになりそうです。この感染症がこれからどうなっていくのか、まだまだ予測できませんが、来年度は川むし観察など自然に触れるイベント、「子どもの居場所」の活動を紹介する行事を、実施方法を工夫しながら始めていければと考えています。(手塚)

とちぎ教育ネット・オンライン講演会のお知らせ 2020年11月7日(土) 午後1時30分より

ホームページの情報より作成しました。登録は最下行のアドレスをご覧ください。

新しい不登校施策と公民連携の推進に向けて —教育機会確保法と不登校関連施策—

講師：廣石孝さん

(文部科学省初等中等教育局
児童生徒課生徒指導室課長補佐)

不登校児童生徒の支援の画期的な施策として平成28年12月に教育機会確保法が公布されてからもうすぐ4年になります。この法律の正式名称は「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保に関する法律」です。不登校児童生徒の学校復帰を前提とするだけでなく、フリースクールなどの民間団体とも連携して教育の機会を一人ひとりに確保していくことが明記されている法律です。新たな不登校施策と公民連携がこれからどう進んでいくか、文部科学省の廣石さんにお聞きします。ぜひ、ご参加ください。

[新しい不登校施策と公民連携の推進に向けて] タイムスケジュール

- 13:40～14:20 廣石孝さん(文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室課長補佐) 講演会
- 14:20～14:30 質疑応答
- 14:30～14:50 野澤こなつさん体験談(当事者体験談・高根沢町「フリースペースひよこの家」卒業生)
- 14:50～15:10 宗俊貴恵さん 体験談(当事者体験談・高根沢町「フリースペースひよこの家」卒業生)
- 15:10～15:15 まとめと挨拶

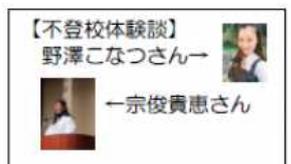
* オンライン講演会終了後、ZOOMにお残りいただいた方には県内フリー

スクール紹介と意見交換会を16:30まで実施いたします。ぜひご参加ください。

15:15～15:45 フリースクール紹介 15:45～16:30 意見交換会

問い合わせ先 tel: 028-678-4745 mail: npoten2019@outlook.jp

参加登録 [https://npoten1107.peatix.com/?](https://npoten1107.peatix.com/)



特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 51 カレル・チャペックの本

園芸家12ヶ月 (小松太郎訳 中公文庫) / 白い病 (阿部賢一 訳 岩波文庫)

チェコ文学のヒーロー、チャペック(1890～1938)。「R・U・R」という戯曲を大ヒットさせ、「人造人間 = ロボット」という言葉を世界に広めたことで知られています。ジャーナリストとして出発し、社会問題を織り交ぜた多くの戯曲、小説やエッセイを執筆しました。本棚の背表紙に眼が行くと、つい取り出し、読み始めてしまうのが「園芸家12ヶ月」です。題名どおり1年間の園芸家の楽しみや苦しみについて、饒舌かつユーモアにあふれたおしゃべりが延々と続く園芸ガイド。そこにチャペック独自の自然観や人間観が込められています。「10月の園芸家」は『10月ははじめて訪れる春の月、地下の芽がうごき出し、ふくらんだ芽がひそかに伸び始める月だ。ほんの少し土をひっかくと、親指のように太い、しっかりした芽や、やわらかな芽や、いっしょうけんめい働いている根を発見するだろう...』という記述で始まります。この冒頭の文を読み、あれ、「徒然草」の『春暮れて後、夏になり、夏果てて、秋の来るにはあらず(中略)迎うる気、下に設けたる故に、待ちとる序甚だ速し』(第155段)と同じだなと気付いたり...読むたびに発想を刺激されます。園芸の好きな方はもちろん、園芸に興味のない方もこの本で「園芸家」になれるかもしれません。画家、そして詩人でもある兄・ヨゼフ、そしてチャペック自身による、独特な絵柄の挿絵も楽しい。

さて、「白い病」は今年の9月、岩波文庫から新訳として出版された戯曲です。強い感染力を持ち、病原体も治療法も不明の疫病。はじめは目立たないが皮膚に白い斑点があらわれ、50歳以上の患者は肉が腐って死に至る。疫病が広がり病人が町にあふれるなか、まさに侵略戦争を始めようとする独裁者と戦争を支持する興奮状態の群衆が描かれます。そこに、特効薬を発見し効果を実証した医者が登場。「大量殺戮である戦争には断固反対。不戦を約束しなければ特効薬は提供しない」と宣言する...。いまの世界を予想していたのではと思えるような展開です。舞台を近未来のどこでもない国に設定し、SF的手法で物語を組み立てたチャペックの力業に感嘆します。終幕「第3幕・第3場」まで、あっという間に読み終わりました。

「園芸家12ヶ月」文庫本のあとがきによると原著初版は1928年。大戦後の短い平和が暗転し、隣国ナチス・ドイツの影が母国チェコスロバキアに迫る重苦しい空気の中で、『人民新聞』の連載随筆をまとめた本だそうです。のんびりした園芸を主題に、エスプリの効いたエッセイを書くことは、ファシズムが広がる時代への強い抵抗だったのではと思います。極限状態を描き、権力風刺を込めた戯曲「白い病」は、1937年にプラハで初演されます。翌年、チャペックは寒さの中での庭仕事による肺炎で亡くなりました。その次の年、ドイツ軍がチェコスロバキアに侵攻。ナチス批判を行っていた兄ヨゼフは逮捕・収監され、1945年、強制収容所で亡くなったとのことです。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：52
賛助会員：15
団体会員：4
入会金なし

年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員継続、応援をよろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

なんとなくのへや

日本の官民合同で開発したスーパーコンピュータ「富岳」が現在世界でいちばん速い計算機ということになっている。「富岳」とトップを争うマシンがアメリカ西海岸にある「Summit」。ゲーマーが要求する高速画面処理に特化して開発されたGPUの改良版数万個を数値計算チップに転用し、IBM開発のCPUと組み合わせて超高速計算を可能としたシステムという■情報関連技術はテレビゲームなどに熱狂するマニアたちの要求に牽引され、発達してきたという一面を持つ。昔知り合ったコンピュータの達人は「いちばんコンピュータパワーが要るのはゲームなんだよね」とよく話していた■では「富岳」はどうかと調べてみたら、ARMチップをベースに開発した15万個もの高速演算装置を組み合わせたものらしい。ARMといえば今号でも紹介したmicro:bitやArduinolに使われている超小型のCPUではないか。スマホ、家電、自動車、ロボット、あらゆる装置に組み込まれている素子である。いま、最先端技術と身近な技術は分離されたものではなく、互いに影響しあって発展している■30年前の「計算センター」が手のひらにのってしまう時代。スマホやタブレット画面の裏に組み込まれたパーツやプログラムに興味を持つ子が増え、もっと増えてもいいと思うこのごろである。(T)